

a 学校教育目標	よく学び 心豊かで 元気な子	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) ○確かな学力をつける学校○質の高い教職員を育てる学校○保護者・地域とともに歩み、信頼される学校
----------	----------------	----------------------	--

評価計画				自己評価						改善方策		I 学校関係者評価		
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月		i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方策	評価			
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の育成	◎基礎・基本の定着を図る。	○算数科を中心に言語活動を取り入れた単元構成の工夫と授業改善を行う。 ○繰り返し練習による学力の定着を図る。 ○帯タイムなどによる個別指導の徹底を図る。 ○辞書活用による語彙力を向上させる。	・[基礎・基本]定着状況調査において本校の通過率が県の通過率を上回る。 ・期末テスト(国語・算数)において75点以上をとらせる。 ・標準学力調査で全国平均を上回る児童の割合を70%以上にする。 ・国語辞書による語句調べにおいて、1年50、2年150、3年250、4年400、5年500、6年600以上調べる。	100%	国99% 算92% 理102%		国99% 算92% 理102%	B	・国語は71.0%(県71.8%)で、読むことの領域に課題がある。算数は71.7%(県78.0%)で分数・複合図形の面積・円の中心と半径に課題がある。理科は75.6%(県73.9%)で、方位磁針の使い方・金属の温度変化と生活との関連に課題がある。 ・期末テスト国語平均77点、算数平均68点という達成値で、算数の考える力に課題がある。 ・標準学力調査は、1月に実施される。 ・3～6年生は、31人中27人が目標を達成している。1年生は辞書引きの基礎となる50音の練習や音読、視写などに取組んだ。2年生は、一人調べができるようにするために、50音順の並び替えや辞書に出でる順に並び替える学習を行った。	・職員研修で、実際に基礎基本の問題を解き、児童のつまずきを分析している。各学年で系統的につまずきに対する指導を行っていくようにする。 ・学びタイム・個別指導の時間を活用し、復習の時間が空かないようにする。 ・算数の考える力については、図を使った説明や動作化などを取り入れ、指導していくようにする。 ・1、2年生は辞書引き学習に入り、目標の語句を調べられるようにしていく。3年生以上は短時間で辞書が引けるよう意識させて年間目標数を達成できるよう取組む。	5/5		・以前に比べて、子ども達の学力が向上している。数値でそれがよく分かる。 ・子どもたちの学力向上は大変大切だが、より文字にふれさせることも必要ではなか。	
豊かな心の育成	○「いじめ」の発生件数をゼロにする。 ○「挨拶」「返事」「靴そろえ」の定着を図る。	○「学校いじめ防止基本方針」「いじめ防止委員会」による組織的な取組を行う。 ○価値や意義について学級指導をする。 ○挨拶・掃除・靴そろえのモデル化を図り徹底する。 ○定期的な点検と評価を行い習慣化させる。	・「いじめ」の発生件数0 ・「挨拶」、「返事」ができる児童の割合 ・「靴揃え」ができる児童の割合	100%	100%	100.0%	A	・児童アンケートの結果及び担任教諭からの聞き取り調査により、いじめの発生件数はなかった。 ・児童アンケートには悪口や無視などの友達同士のトラブルが挙げられていた。そのようなトラブルがあると答えた児童に対して個々に担任から聞き取り調査を行った。 ・「船木小あいさつレベル」を設定し、児童会目標にも挨拶の向上を挙げて取り組んでいる。その結果、よりよい挨拶の仕方が定着している。 ・日ごとの学習や生活において、返事の重要性や靴揃えの大切さを指導している。その結果、TPOを考えた挨拶ができるようになり、靴揃えも定着してきた。	・児童間のトラブルの解決に向けて、教職員は常に児童の実態を把握し、タイムリーな指導を行い、問題解決にのぞむことを生徒指導部から働きかける。また、問題発生時は迅速な指導を行い、必要に応じて担任、管理職、生徒指導部を交え、組織的な対応や指導を行う。 ・あいさつレベルの向上を年間通して取り組む。また、児童への評価を日常的に行う。 ・家庭での靴揃えができていない児童がいるので、引き続き指導を重ね、保護者への啓発を行う。	5/5		・学校へ来た時、いつも子どもたちが親しみをもちて迎えてくれるのでうれしい。また、感謝の会に出席すると、肩をたたいてくれたり温かい対応ができていた。 ・家庭でも豊かな人格形成に努力を欲している。		
健やかな体の育成	○体力・運動能力の向上を図る。	○柔軟性・瞬発力・走力を向上させるためのサーキットトレーニングを行う。 ○本校の課題である柔軟性・瞬発力・走力を向上させるための体育授業前の準備運動を取り入れる。	・柔軟性・瞬発力・走力において昨年度より向上した児童の割合 ・体育科の授業でサーキットトレーニングを行った割合	80%	78%	97.5%	B	・新体力テストの結果を参考にし、各学年の実態に合わせ、柔軟性・瞬発力・走力を向上させるための活動を体育科の時間にとり入れた。 ・記録が向上した児童が増えたが、依然として記録が向上していない児童も存在する。 ・児童の体力向上についての具体的目標値を設定することができた学年があったが、全校で目標値を設定するには至っていない。 ・各学年の児童実態に応じて体育科の時間にサーキットトレーニングを行った。しかし、水泳・運動会や講師を招いた学習が多く、その時はサーキットトレーニングを実施できなかった。	・今回の結果を参考にし、記録をさらに向上させるために、体育科の学習の前に適切な準備運動を行い、学習内容に応じたゲームや運動を行う。 ・なわとびのめあてカードを全校で作成し、児童に具体的数値目標を持たせる。 ・児童実態に合わせ、船木小サーキットの方法を生徒指導部で検討し、改善をしていく。	5/5		・運動会の子どもの走る様子を見て、昨年と比べてよくなった。 ・柔軟性がより強化されればよい。		
信頼される学校	○情報を公開し、学校に対する理解度・信頼度を高める。	○ホームページの更新や学校だより・学級通信の発行を月1回以上行う。 ○情報発信に関する保護者の肯定的評価は、98.2%である。 ○サービス研修を月1回以上実施する。	・ホームページの更新を月1回以上行う。 ・学校、学級だよりを月1回以上行う。 ・情報発信に関する保護者の肯定的評価。 ・サービス研修を月1回以上実施する。	100%	100%	100%	A	・ホームページの更新は計画通り進んでいる。学校だより、学級通信の発行については月1回以上行うことは学校だより100%、学級通信91.4%の達成率である。 ・情報発信に関する保護者の肯定的評価は、98.2%である。 ・サービス研修については、月1回以上実施できている。研修の充実に向け、ロールプレイを取り入れた、職員個々の実績を生かした企画・運営をしたりするなどの工夫をしている。	・児童の成長やがんばりを伝えるとともに、課題について保護者の協力を得られるように啓発的な内容を入れた学級通信発行に取り組んでいる。全学級少なくとも月1回の学級だよりを発行する。さらに積極的な評言を行い、子どもたちの成長を伝えることで理解度・信頼度を向上させていく。 ・サービス研修の充実に向けて、今後内容も工夫する。	5/5		・保護者の信頼を得ることも大切であるが、保護者自身の身勝手な考え方にも問題がある。 ・学校教育目標等について保護者に分かりやすく知らせたい。		

【j:自己評価 評価】

A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100  
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【I:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。  
ハ:分からない。

本年度の重点目標については◎印で示す。